

第8回春日部市医療介護職連携研修・交流会(春コン)

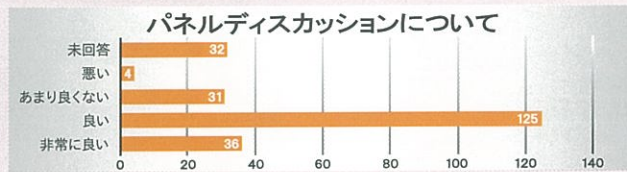
於：東部地域振興ふれあい拠点施設(ふれあいキューブ) H30年11月21日 開催

テーマ:「入院医療からシームレスな在宅医療介護へ ～春日部市の取り組み～」
 について研修交流会を開催し、春日部市内に従事する医療介護職の288名が参加しました。今回は、春宅会・竹田広樹副会長を座長にお招きし、春日部市内4病院の退院支援に関わり従事されている皆様方にパネリストとしてご参加いただき、パネルディスカッションを行いました。時間の都合により、グループごとの情報交換会は行うことができませんでしたが、アンケートの結果では、参加者の約6割がパネルディスカッションについて非常に良い又は良いと答えていました。この結果を踏まえ、次回の春コンでもパネルディスカッションを行う予定です。会場内参加者からの積極的な意見交流が期待されています。

☆座長：春日部市在宅サービス多職種連絡協議会 副会長 竹田広樹 先生
 ☆パネリスト：春日部市立医療センター：MSW 西村宝幸 様 病棟NS 三村薫 様
 秀和総合病院：看護部長 板垣康子 様 MSW 竹野みはる 様
 春日部中央総合病院：退院調整看護師 牧原薫 様 MSW 荒木彩佳 様
 春日部厚生病院：MSW 根岸正和 様 看護師 寺島和亜 様

○今回の研修会テーマ「入院医療からシームレスな在宅医療介護へ～春日部市の取り組み～」として行われましたパネルディスカッションについて感想を○で囲み、具体的な意見を記入して下さい

非常に良い	36
良い	125
あまり良くない	31
悪い	4
未回答	32



各4病院から、自施設で実際に行われている入退院支援についての発表を行って頂き、その後パネルディスカッションが行われました。討議では高齢者・老々介護・独居等の支援困難事例は当然ながら、患者全てに多職種連携が必要であり、退院後の在宅生活を如何に支えていくのか、参考事例から対応の実際を学ぶことができました。また患者の病状を診てきた主治医が、カンファレンスに参加することで情報共有しながら、再入院を防ぎ健康を維持した在宅生活を継続していくことは大切で、その役割は重要なのではないのでしょうか。今回は、フロア内の参加者からも訪問診療、臨時的往診が必要になった場合や、在宅看取りなど、退院困難に繋がる部分での対応についても質問があり、各病院の現状について知ることができました。医療側の制度上の問題も絡みながら、各ケースに応じた柔軟な対応が求められています。患者(利用者)が人生の最終段階をどう迎えたいのか? ACP(人生会議)が普及し始めており、まずは本人がどうしたいのか? 重要な意思決定支援のため多職種連携がその鍵を握っています。



春日部市医療介護職人財バンク(春バンク)研修会

於：あしすと春日部 H30.11.29 開催 参加者30名

春バンクでは、地域ケア会議に参加可能な専門職の登録と派遣業務を行っています。登録した専門職の皆様を対象とした研修会を開催しました。この日は、事例を通し助言の仕方についてグループワークを行いました。事例の問題点(アセスメント)対策と具体的な助言が求められています。



春バンクは、登録制です。専門職皆様の支援を必要としています!
 詳しくは、春進センターまでお問い合わせください。
お待ちしております!! (^ ^)/

春しん

2019年(平成31年) 第6号誌 秋冬号
 平成31年3月発行

【発行元】
 春日部市地域包括ケアシステム推進センター
 (春進センター)

春日部市在宅サービス多職種連絡協議会
 (春宅会)



進先生 & 春ナースの
ちよこつと講座
 一病気の理解—
 「五月病と食事」 NO.6



やる気が出ない! 食欲出ない...
 もしや、**五月病!**? かな?

何となく体調が悪い
 眠れないし...今日も
 仕事に行けない...



前の仕事は目標達成した! 部署異動後は
 環境に馴染めない...



五月病は主にストレスが原因で、正式な病名ではありませんが、重症となると適応障害、うつ病など、症状によっては診断される場合もあります。そんな五月病を防ぐに良いとされている食品があります。

脳内物質の「セロトニン」は、精神を安定させる作用があるとされています。その「セロトニン」を分泌を促す食品を一部紹介します。毎日の献立に取り入れ、日々を元気に過ごしましょう。

食品には「セロトニン」の分泌しやすくなる3つの成分があります。
 1、**トリプトファン**: 必須アミノ酸。
 肉・魚・大豆製品など良質な蛋白質。



2、**ビタミンB6**: セロトニン生成に必要です。青魚、鶏肉、バナナ、ニンニク、ショウガ、アボカド、ナッツ類



3、**炭水化物**: トリプトファンを脳内に取り組む。ご飯、パン、玄米、ライ麦、全粒粉パン。これら3つの成分をバランスよく、特に**朝食で摂ると良い**そうです。健康は食事からです。



「第9回 春サポ連携交流会」H30.7.11開催 春サポってなに? ...

春日部市在宅サービス多職種連絡協議会(春宅会)のサポーターのことで。春サポで具体的な地域課題の抽出や医療介護連携推進事業の取り組みに対する意見を交換し集約します。その討議内容を春進センターが受け、春宅会へ報告提案していきます。また、春宅会・春進センターが主催する研修・交流会の企画・運営において一緒に活動を行います。



参加したい!

春サポは、春日部市内の医療・介護に従事している方であれば、誰でも参加可能です。春進センターまでお問い合わせください。

今回は、第8回春コンのテーマについて活発な意見交換が行われました



・前回の症例検討が良かった。
 ・介護職の底上げを図るためには、共感できるテーマがあると良いね。
 ・施設のケアマネと在宅のケアマネでは(サービスが異なる)お互いを知ろう。
 ・何故連携が必要か、自ら導き出していけるように!

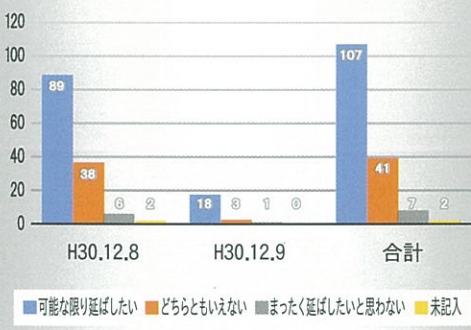
・内服トラブルについて。(介護知識普及)
 ・認知症DVD再生。
 ・寸劇も良いのでは。



健康フェア ～知って得する！ みんなで健康づくり～

ふれあいキューブ6階春日部市保健センターに於いて、健康フェアが平成30年12月8日(土)～9日(日)の二日間に亘り開催されました。参加団体は、「春日部医師会・春日部歯科医師会・春日部薬剤師会・春日部市在宅サービス多職種連絡協議会(春宅会)・春日部市接骨師会・春日部市鍼灸マッサージ師会・春日部市食生活改善推進員協議会・春日部市健康・食育いきいき隊・春日部市リハビリテーションを考える会・春日部市精神障害者家族会ひだまり」の10団体であり、各団体がそれぞれの専門性に基づいて、健康チェックや健康相談、講習などを行い健康づくり活動を行いました。春宅会主催のイベントには二日間で200名前後の方が訪れ、アンケートの結果では、60～70代の年齢層の参加者が多く、健康や健康寿命への意識が高いことがわかりました。

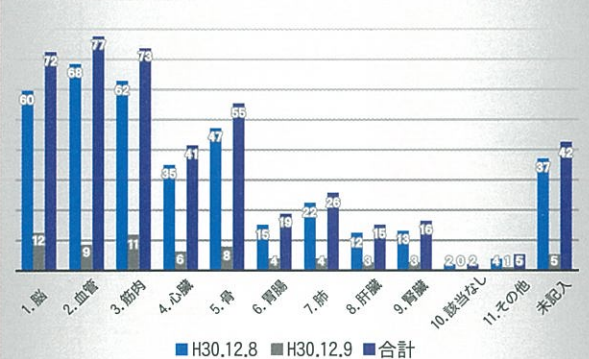
ご自身の健康寿命について



春日部市在宅サービス多職種連絡協議会では、血圧測定・筋力体脂肪測定と医療介護相談を行いました。具体的数値が分かります！毎年続けて訪れて下さる方もいて大好評！InBody(インボディ)という測定機器を用いて約30秒くらいで測定完了！

今回のアンケート結果では、可能な限り健康寿命を延ばしたい、そのためには、脳・血管・筋肉・骨を鍛えたいと考えている人が多いことがわかりました。

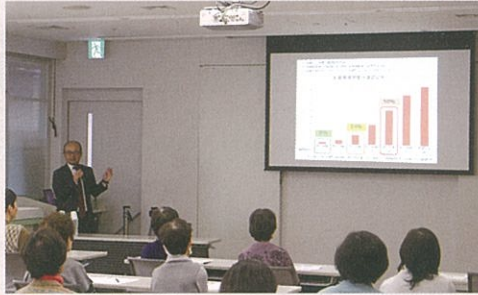
健康寿命を延ばすために鍛えたい部位は？



自宅でいきいきと暮らす講座

左側：春日部医師会・春宅会 山崎会長
「要介護になりやすい口コモ」

右側：春宅会・南本副会長
「いきいきと暮らすために医療と介護を」



春宅会

春宅会 山崎典之会長 藍綬褒章 受章!!

褒章は、明治14年12月の「褒章条例」公布により、紅綬褒章・緑綬褒章・藍綬褒章が始まりました。その中で、山崎会長が受章された藍綬褒章とは、会社経営、各種団体での活動を通じて、産業の振興、社会福祉の増進等に優れた業績を挙げた方。また国や地方公共団体から依頼されて行われる公共の事務(保護司、民生・児童委員、調停委員等の事務)に尽力した方が授与対象とされています。

この度の受章を祝し、また山崎会長の日頃からのご尽力に感謝の気持ちを込め、春サポ(春日部市在宅サービス多職種連絡協議会サポーター)の皆さまより、花束とプレゼントが贈呈されました。プレゼントの写真立てには、この日この時のお写真が飾られました。



第7回 春日部市介護事業部門連携研修・交流会 H30.9.19開催!

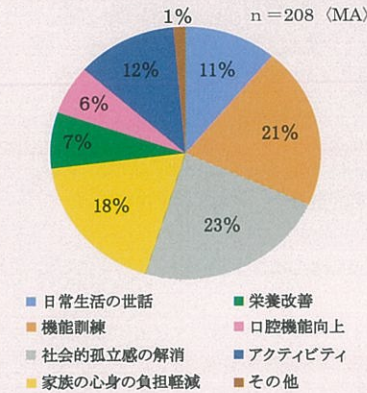
テーマ：事例検討から、通所・訪問サービスの有効活用について考えよう!! ～ミニレクチャー付き～

今回の研修では、目白大学保健医療学部/作業療学科・作業療法士 金野達也様と、春日部厚生病院看護師・寺島和亜様を講師にお迎えし、作業療法士の視点から「作業遂行分析のポイント」を、また看護師の視点から「看護の視点で事例を考える」を題目にミニレクチャーを行い、次に事例の支援方法についてグループワークを行いました。今回のアンケート結果では、要支援者における通所介護・訪問介護の利用目的は、機能訓練・社会的孤立感の解消・家族の心身の負担軽減が全体の6割となりました。参加者からは、「自立支援の考え方、必要な人に必要なサービスをする為に現状の分析が大切である。」「自立支援のためには、身体介護で共に行うことを目的としなければ意味がない。」「等、自立支援のためのサービス提供の重要性についても意見があがりました。

3. 要支援者における「通所介護」「訪問介護」のサービスを提供するにあたり、利用目的をどのように捉え(イメージ)てますか?
下記より、思う項目全てに○をつけてください。又は、その他に記述してください。

「通所介護」

日常生活の世話	23人
機能訓練	43人
社会的孤立感の解消	48人
家族の心身の負担軽減	38人
栄養改善	15人
口腔機能向上	13人
アクティビティ	25人
その他	3人



自立のためには、どんな支援方法があるだろうか…たくさんの意見が出ました!!

研修参加者は87名でした。

第8回 春日部市介護事業部門連携研修・交流会(部門別にて開催)

テーマ：「事業所の現状と課題」と「人生の最終段階における医療・介護について」

今回は、アドバンス・ケア・プランニング(ACP) = 人生会議について、実際に参加者の方々に資料を基に、ご自身が人生最後の時にどうありたいのかを検討し、その理由などを家族や友人、大切な方へ伝え説明するという作業を体験して頂きました。個々の性格・成育や生活歴・現状環境によって選択肢の重要度が多様であり、本人の意思確認が最優先されることが常に大切であることがわかりました。そのために必要なことは、可能な限り本人家族を含めた医療介護チームが正確な情報を共有し、本人が最善の選択ができるよう助言し、意思決定を支援していくことが重要であり、その果たす役割は大きいと言えるのではないのでしょうか。

居宅部門：参加者59名 H31.1.16

<現状と課題>

- ・要支援の利用者の対応(総合事業となったので今までのサービスが使えなくなった。)
- ・独居・認知症・生保受給者の利用者が多くなってきた。依存が強くケアマネの担う守備範囲をこえてしまう。役割の明確化が必要。
- ・権利意識が高いので、契約書等をしっかりする。ケアマネを支援する組織が必要かも...



通所部門：参加者15名 H31.1.23開催

<現状と課題>

- 多職種連携**
 - ・情報提供内容にケアマネごとに差
 - ・訪問看護とケアマネの連携が難しい。
 - ・専門職による研修。
 - ・デイのナースと訪問看護の連携。
 - 同職種連携**
 - ・デイケア併用はできないでデイケア同士なし。
 - ・デイケア同士は担当者会議で顔を合わせる。
 - ・ケアマネを通じて連携を行う。
 - ・春コンなどを通じて、他の同業者連携を行う。
- ☆春コンへの参加するためには...



訪問部門：参加者8名 H31.2.8開催

<現状と課題>

- ・訪問介護は、自立のための支援。プランの元に活動していく。サービス提供利用目的の考えを統一しないといけない。
- ・職員確保のためには、処遇改善。
- ・生活介護が7割
- ・訪問介護の実習がなくなり、人員確保が難しくなってきた。



施設部門：参加者13名 H31.2.12開催

<現状と課題>

- ・稼働は、特養8～9割、グループホーム満床、ショートステイ8割稼働。有効待機者との連絡。
- ・新入職員の受入と教育体制を整える必要。
- ・職員の定着、職場環境作り。
- ・看取り支援は、その都度確認 ACPの理解も必要。
- ・救急の受入先がみつからない。インフルエンザ陽性だと断られる。

